

高階秀爾氏と秋田の関係

秋田魁新報社が創刊115年を記念して、平成元年に発行した画集に「秋田蘭画」と題した超豪華本がありますが、高階氏はその本の序を東京大学教授・高階秀爾として記載されています。以下にその一部を要約して記載します。

秋田は私にとって懐かしい土地である。

父が千屋村（現在は千畑町）の出身の関係で、戦争中から戦後にかけて、私は大曲町に住み、角館中学（現在の角館高校）に通った。……。当時の私は、駅から学校まで毎日通っていた道に沿ってずっと続く黒い板塀の武家屋敷のひとつに、小田野直武が住んでいたことなどは、まだ知らなかった。

私が秋田蘭画のことを知るようになったのは、美術史を専門とするようになって、フランスに留学して帰ってからのことである。……。

角館が秋田蘭画の重要な中心地であることを知ったとき、私は、懐かしさと意外さの入り混じった一種不思議な感慨に促された。……。西欧世界に憧れ、西洋の文化を求めて旅してきた自分が気がついてみたら一廻りして故郷の土地に立っていたからである。（後略）

とあるように、氏と秋田の土地は密接で、これまで、角館は勿論、郷里・千畑（現在の美郷町）、大仙市大曲、秋田市と数回に亘って、氏からご講演を頂戴しております。

